

LICENSED PRODUCT  
3/Color  
White  
Magenta  
Red  
Yellow  
Green  
Cyan  
Blue  
Black

清 堀  
経 之  
下

達 13  
1792  
C/L

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12  
2m  
JAPAN  
Tajima

明へ遠 13  
1792  
34

誹語堀之内詣卷之下

東都 十返舎一九著

色小瀧多傾城買

ちあうえんご情令の潤

此街道より堀の内へつれ及ぶ。江戸屋とりつ

料理兼存あり。お酒も染らみく支度せん

買びし久ぬれやちあうえんよんお出るまれま

染しむころんをのりくま。おくのるふま

東都

東都

東都

ある成 漸なほとみくまなるゆゑ。お決きままぬきを寄成  
えれば、年としのころ二十なるの若わかんふよりた男おとこあ  
まどくをみくみかちよまらぬとの又また風かぜ作つくふみの  
知しらうはねく。ほねざらあふふさうづたさう  
あが。むらう樂あそびと揚あるとさう人ひとおのてのさ  
より是これ由よしああ戸と風の若わか男おとこふれ、所ところふま  
の風かぜはたづま成なりのなをく。この葉はやふ入いるを  
するより。くさんの男おとことあ成なりをて「是これは山さんあねう。あつら

あおま條ぢょうが條ぢょう「イヤ子こ風かぜ雅みやびさぬ。是これはさう人ひとと。モシ解かせ中  
と。きまどいさげは、病やまひ氣きで内うち入いり、道みちであるとき、安やす中ちゆうとさ  
堀ほりの内うちへその内うちに於おり、實じつのわりのんが條ぢょう「チヤちやおふまこと  
伏ふがあつて、ひ移うつつとわうへ出でうけ中ちゆうこのさ。マ持もち合あせさ  
いさうあかんまさん「いささきやせうう「まじけ者ものはあそれ  
久ひさね「ハ百ひゃく管かんや金きん巴ぱ樓ろうで。ゆとさうするころちうが後あとふ  
あふりのハ西せい繪えいらうあや「ありゆとめ人ひと決きるゆり、等らうく  
時ときおあめけるのか、世よ界かい「モシ、浮う世せへ、危あや角かく人ひと全ぜんのるりこ

その下

中りしり

酒子  
了

あき

百歩あり

長考

ちり

酔ろけ

と



芝白草  
一船



江戸町の口にも。さうく又拾得のりこでふあつた。

山 且ちもけさ自由義理借ふあつて。新造を出て

やうやアあつたやせんが。ごも志うごごごらやせん女郎

けもあつたや。且ちもあつたや。今もあつたや。

ふ。こけやア。孫入とらふんごら。今もあつたや。

あつたやせん。トたふあつたや。のうち。あつたや。

よひ。あつたや。時ふあつたや。あまト樓でお附合やて。

そんなあつたや。お訓染とらふでも孫入が。なんごら内か

おん女く。あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。

縁でござらやせん。そふあつたや。あつたや。あつたや。

あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。

あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。

あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。

あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。

あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。

あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。あつたや。

て進まぬ中固をくり。あり入春迄でせめて下をさし上げ出ま

せとめりりホニ揺るのうねゆはまらめいひとせとせと肉あ

腐るあどあつても親仁のまがわるう。こころちの自由

あやああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

てのあこのも。中あ毎あありせとめりうねトらそをうり。あり

りてあをたよりみで。ろくてもあをあつうひをせ。のり引あうねうひのしを

あまああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

あまああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

あまああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

あまああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

あまああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

あまああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

あまああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

あまああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

あまああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

あまああう福入で。こまうこてこあ。ぞおめ入をんうけ

...私も冥土のあの新造出...  
 ...石塔をたてるあつて金の金...  
 ...トエドめのをさす...  
 ...コリヤ風雅さるも...  
 ...とるてたをさるりのんである...  
 ...こゝ中内も...  
 ...トエドめのをさす...  
 ...コリヤ風雅さるも...  
 ...とるてたをさるりのんである...

...おいらんのも目おかり...  
 ...堀の内へ...  
 ...おひらき...  
 ...おひらき...  
 ...おひらき...  
 ...おひらき...  
 ...おひらき...  
 ...おひらき...  
 ...おひらき...  
 ...おひらき...

...のり下

...





文亭  
一軒



ゆ  
孝  
く  
や  
友  
を  
堀  
の  
内

福  
之  
唯  
の



研  
御  
軒  
館

可  
居

堀  
の  
内

後家の惣屋へ入るようして。後で建て貯が潰れや  
 けるも。親戚がお寄の祖師堂を建てるようして。満  
 ちうきうのほど様ざりして。長白の住持はごまござり  
 やせう。こじもツイ一日勤て。一角のなか。コリヤ屍  
 ここのふらと。その晩へろくお寝くまのふらと。あつ  
 むちやごまござりやせんう「イヤなまじりまじり」も。親ののり子の  
 めのとらふらうらうら。こじがぞんぞんやる。なる所の目  
 悪ふの依のごきと。おまじりやうらつて来て。金十あ

七難昇滅して。まごふそのお孫で。まろくくとぞんぞんを  
 り。こじもあつて向入はせられて。ままあつてあつて  
 中へ。よくあつてえまじりあつてあつてあつてあつてあつて  
 日けちちとさるやうなもので。まじりもまじりかへて。し  
 つれやせんう。こじは世をまさん。しやまひまひまひつてお  
 まる。危病入のまじり移入とあつてあつても。天通うら  
 正のまじりうら。あんな入のまじりまじりまじりまじりまじり  
 あり入ト分りまじりまじりかたな一の申すまじりまじりまじりまじり  
 ありまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

ついでに...  
わたりて...  
さあ

一さのんご...  
モいのみ

ゆーく...  
風雅さるそ

らや...  
女中。その

さ...  
ま

ナニ...  
あ

モ...  
西側

サ...  
や

一...  
中

紙...  
南

中...  
あ

サ...  
あ

る...  
あ

あ...  
風

う...  
あ

あ...  
あ

あ...  
あ

録へ。コウおさま。ぬーが懐中の百疋も。ちよろこめりうー

「コウおさま」が「ホニ今監人の口けらちとらりて全

と。えんせいでち録へ。ゆもる志とふ二角ゆへ、券と

う。おさまりせな。トのうらあしき。すも通ひうまふあし。てあちく「これで

よりく。コウ女中。しまゐる。あとのみ百疋。このあつ

のえうらとるがら。モシ。宗匠が百疋出さう。このちが

ふところの南一がのまの中心。これであま入とか。ふふ

け。あやこさう。るんじうらう。いん。お持がら。て。ほものあげ。

折角とんまがまのりもの。毒の毒ど。これであま

あて。さうとけ入まや。う「さう。これに今。今。今。内

利るもある。早くけ入らあや。なう。録へ。コウぬー

「さう。さう。ゆさう。とま。さう」ト。あまのけあひて。ゆある。あま

あまのけ。一。度。程。こそ。ゆへ。さ。え。が。ら。う。う。こ。コウヤア。とん

め。あ。つ。ら。め。入。ま。入。ホニ。さ。う。あ。ち。う。う。あ。じ。あ。ま

あま。これ。海。も。さ。め。入。ま。入。コウヤア。は。ま。う。録へ。サア

い。う。ふ。ト。あ。ま。の。け。あ。ひ。の。う。ら。あ。し。と。あ。ま。の。け。あ。ひ。の。う。ら。あ。し。と。あ。ま

〇十一



ありの内下



舟の  
 舟  
 舟  
 一  
 双

〇十三



か  
 かく  
 む  
 ね  
 下  
 ま  
 ま  
 ま

ありの内下



〇十三

あつこつとつりあはるる



第七章

出傍題目の奇持

佛と賣ぐいの及ん傍

街道よりまうりて。畑中の及とゆけばお例小菰延

まど紙志きて。糸清のく小鏡をうへりあくのをも食

ぶも「盲」目形する。是のたまりぬりらるる。「めんらど

ころませ「スヤ」こころへは覚のむ鼻のまぐらこ

はんぢう「タ」くらをりりま志き。腰抜たうでござる

まま「タ」ぶくまぐく専「スヤ」たうはま「タ」ひはくなん

あも「タ」ませぬく。ひりトくそ疑美むら「タ」まま

か惹「ト」小「スヤ」鏡「タ」ませ。三「タ」はけりや

そんで「タ」ませ「タ」はくま「タ」はくま「タ」おつあ

ま「タ」れど。馬「スヤ」の金「タ」（「タ」）あ「タ」このお後

「タ」合「タ」の「タ」あ「タ」で「タ」ま「タ」親「タ」子「タ」入「タ」ら

「タ」ま「タ」で「タ」た「タ」ま「タ」「タ」一「タ」文「タ」ま「タ」び「タ」こ「タ」ん「タ」が「タ」た「タ」ま「タ」あ「タ」ら「タ」な

「タ」ま「タ」で「タ」ま「タ」ま「タ」「タ」そ「タ」ん「タ」ま「タ」ら「タ」の「タ」入「タ」ら「タ」ま「タ」こ「タ」一「タ」文「タ」の

つりあはるる

つりあはるる

石の...  
...

鏡で。二人おきあるとらへ。後やど大切なめいり  
コリヤ一文でも。めいりまふまほしてあまう孫入り

よ人跡後の園入らうせり時。さどの次根の鳥城  
はらふ也。鳥城はけいので後の目やうじよの目とら

して嬢登也。さうくと祝せりよおの浪頭目の  
縁記。又辰のに地盤の時。相うちあちと牡丹條のあん

づう。修葺建をあらうづうのませぬうよト

あやづりあるとらへ。あまのめいりあまのめいり  
あまのめいりあまのめいり

あまのめいりあまのめいり  
あまのめいりあまのめいり

あまのめいりあまのめいり  
あまのめいりあまのめいり

あまのめいりあまのめいり  
あまのめいりあまのめいり



竹の下

第十末吉 石玉未分時

憂心轉相悲

漸々通大道

華發應殘枝

石玉未分時。この石玉

いま分色する時とご

ころ。俗にやまの海を

の屍子玉とやまをゆうる

りので石玉と云。屍子玉が

石のやうなまらうて。さうしてまらうてまらうてなむら

らうてまらうてまらうて。いま分色する時。むら憂心とら

出家の屍子玉が。この外からうらうらうて懸念とら

こかありうら。憂心轉相悲。これをまらうての身の人系

とらうてえねむ。まらうての屍のうらうらありうら。とらうて

屍にぬけて。燈のまらうて。まらうて。まらうて。まらうて。

米屋の屍。酒やの屍。うらうらの屍。くらうら。ゆき。ゆき。ゆき。

ほいて。屍。うらうら。まらうて。屍のは。屍。うらうら。屍。うらうら。

出かけ。うらうら。なうらうら。うらうら。うらうら。うらうら。うらうら。

海く。大道。通とあり。後。うらうら。は。うらうら。うらうら。うらうら。

かの屍子玉がとけて。大便のうらうら。うらうら。うらうら。うらうら。

そこで華ひいて。跡枝あとえは懸かむら。もあて人の  
 肉にくはまるこも鼻はながひちかげひとらふ。今いまもひきまわ  
 は合あがまるくて。鼻はながひちかげてみる。大おほ屋やをど  
 せんく鼻はなもまきくさるもど。ままのひくふたど  
 かのけ又また跡枝あとえとふ。残のこりのこる。枝えは尾おたりするまで  
 アの字あと鼻はなくこのかのおくおこのらうくの尾おが跡あとつて  
 あつこも。次つぎ手ておかきううたり入い清きよ麗れいとあどふ。ま  
 尾おかよきまども。島しま射やりまむむけし。とらうく尾おのた  
 了しるあうらう。尾おの用ようを大おほ切きふさうまやこ。一いあ  
 るどハア。お祖そ作ぞはものおみらふ。おそざいこんどり  
 日ひ一い尾おおたるあやや。ちがういごううまの。あんぞ。かん  
 ぞう。らうくの尾おがらあややたまげやま。け尾おのこまの  
 ちうあややのちうままむべり。一いあつあふ其その尾お懸かむ  
 透とししら丸まるかぶが。とらうくまんぐさう一いあつあ。りりまらう  
 その尾お除のぞのおちりちとまむまはらうら。一いアヤアあらまむ  
 ちうまむむ代しろああらうう一いまおああよよぬぬのの持もち

あうらう。尾おの用ようを大おほ切きふさうまやこ。一いあ  
 るどハア。お祖そ作ぞはものおみらふ。おそざいこんどり  
 日ひ一い尾おおたるあやや。ちがういごううまの。あんぞ。かん  
 ぞう。らうくの尾おがらあややたまげやま。け尾おのこまの  
 ちうあややのちうままむべり。一いあつあふ其その尾お懸かむ  
 透とししら丸まるかぶが。とらうくまんぐさう一いあつあ。りりまらう  
 その尾お除のぞのおちりちとまむまはらうら。一いアヤアあらまむ  
 ちうまむむ代しろああらうう一いまおああよよぬぬのの持もち



あけききり

梅さくらの  
垣の内

あけききり

音  
一石

音の  
様

さく

西の清

西の香

あざふの、あね 髪いぢい、いらつてもよめいごぢぶる。あま 一そんぢうは

でようんべいう トあひのりせしとて一ちや一おのまりりせりうのありさ  
そよありをたてりちゆくおはまきあらうくちまき

あまうぢうんておししくおまのりのとてあやぢのいおまのりお引え一モこ  
るんをうのりつうこそなくたれとせしおあまうぢうぬるなげう

今の尻除のお守とりよへど、一おまのりうぢ縁一アイ

こそが尻よけ あね 一うゝゝゝゝ縁があへらつて。尻よけの

守といふがあるもの一イヤモ一のおの尻除のりい

解て。ゆでもけ守ひとり おひち とぬくらへんあゝ病除

守んである女中へ安産の守。又尻除ははとむうへの

好もあざふの あね 髪をつけておまきと。う孫ていひ付らぬお

よりこそぞ あね 尻よめのある人つゝ尻よけのまのりつで

がる トありのけりふをまきとておまのりおまきと一コリヤおまのりおまきと  
おんていの中をうりの傍らうち出

そんなことをいひはけておまき あね 一さひばもあまが あね 一お

むくく あね 髪をぬじある。そんなことをあううさあめい

めのも あね 髪をぬじある。コリヤ安産のまのりおの病除

の守 あね 髪をぬじある。おまのりおの守 あね 髪をぬじある。おまのり

おまのりおの守 あね 髪をぬじある。おまのりおの守 あね 髪をぬじある。おまのり

おんころも

おんころも





